

「ラオス投資環境視察ミッション」報告

(2008年11月9-15日)



ラオス-ベトナム国境（ラオバオ）



第二メコン国際橋

日本アセアンセンターは、ラオス計画投資省との共催で、本年11月9日から15日まで「ラオス投資環境視察ミッション」を派遣した。同ミッションでは、フエ（ベトナム）からビエンチャンまでの東西経済回廊における物流の現状視察及びラオスに進出している日系企業を視察するとともに、バンコクにおいては、ジェットロ・バンコク・センターと共催で、タイに進出している日系企業を対象とした「ラオス投資セミナー」を開催した。概要は次のとおり。

1. ミッション概要

今次ミッションは、フエからビエンチャンまでの東西経済回廊における物流の現状視察をテーマに、サワン・セノ経済特区、ビエンチャン近郊に進出している日系企業を中心に視察を行った。ミッション参加者は、ラオスの投資に関心を有する銀行、プレス、商社等の民間企業および政府関連機関から構成され、ラオス近隣諸国（タイ、シンガポール、ベトナム）へ進出している企業からの参加も多かった。

また、バンコクにおいて、ジェットロ・バンコク・センターと共催でタイに進出している日系企業を対象に「ラオス投資セミナー」を開催した。

2. 全体の印象

ラオス投資のメリットは、安価な労働力、安い土地レンタル費、豊富な天然資源、近隣国とのネットワークである。タイに進出している日系企業がラオスに進出する場合には、タイのスタッフのラオスへの派遣、またタイにおいて研修をすることが容易であり、また安い人件費を生かして労働集約的な工程の一部をラオスで製造することも可能であり、タイへ既に進出している企業にとっては、ラオスに進出するメリットがある。

一方で、今回、フエからサワンナケートまで国道9号線（東西回廊）を走行したとこ

る、国道9号線上には、アスファルトが剥がれていたり、陥没している箇所がいくつもあり、物流トラックのスムーズな走行は困難であることがわかった。ラオス政府は乾季より、補修工事を行うとしているが、具体的な時期や財源が明確でない。隣国とのネットワークを強化するために、早急に国道9号線の補修が行われることを期待する。



国道9号線

1. 政府関連機関訪問概要

(1) 計画投資省 (MPI)

2000-2007年3月までの投資累計額55億7,000万ドルで、国別内訳は、タイ、中国、ベトナム、フランス、日本の順。業種別では、発電、農業、建設、鉱業分野が大部分を占める。ラオス投資の魅力は、社会経済・財政の安定、治安のよさ、安価な労働コスト、42ヶ国から付与されている特惠関税制度 (GSP) 等である。投資奨励分野は、①輸出のための製品生産、②農林業・農産物加工及び手工業、③加工産業、④人的資源開発、公共衛生、⑤インフラ建設、⑥主要な産業活動に供給される原料と設備の生産、⑦観光産業および中継サービス、である。税制面での恩典は、地域開発段階に応じ3ゾーンに区分され、発展段階の低い地域に対し、高い奨励措置を付与している。その他の奨励措置は、①原料と資本設備の輸入関税と税金の控除、②輸出製品における輸出関税の控除、③国外在住の従業員に対する10%の所得税の適用である。ラオスへの投資の潜在的セクターは、エネルギー、鉱業、農業関連産業、観光、建設資材、軽工業、サービス産業である。サワン・セノ経済特区において奨励している分野は、繊維/食品加工などの輸外型加工、観光/銀行/保険やロジスティックス等のサービスである。

2. 企業訪問ならびに特別経済区視察概要

(1) 外資系物流会社

サワンナケートのコンテナ詰め替え施設。大型の80トンクレーンや10トンコンテナ用フォークリフトを所有している。タイからベトナムに物を運ぶ場合は、タイ (右ハンドル) とベトナム (左ハンドル) の車両交換でコンテナ積み替えをする必要があり、中継点のラオスにてコンテナを積み替えを行っている。タイから、鉱山に使用する化学

物質を運び、サワンナケートからは、銅製品をレムチャバン港経由で輸出しており、レムチャバン港にもコンテナ倉庫を保持している。第二メコン橋は、150トンまでの積載制限があるため、それ以上の重さのものを運ぶ場合には、フェリーを使用している。日系物流会社とも契約を結んでおり、積み替え施設が利用されている。



(2) サワン・セノ経済特別区 (SEZA)

サワン・セノ経済特区は、ベトナムのダナンとミャンマーのモーラミヤインを結ぶ東西経済回廊のちょうど中間点に位置する。サワン・セノ経済特区からホーチミン空港までの距離は約 460km、またダナン港までの距離は約 500km、タイのレムチャバン港およびスワナプーム空港までの距離は、約 700km である。サワン・セノ経済特区は輸出加工区・自由貿易区と特惠サービス・物流センターの機能をもった複数の地区から構成され、第2メコン国際架橋に隣接するサイトA(305ha)には、“Savan City”と呼ばれ、トレードセンター、ホテル等のサービス産業を集積する予定で、現在タイの企業がインフラ整備の調査を行っている。国道13号線と9号線が交差するサイトB(20ha)には工場、倉庫、カーゴターミナル、税関を誘致する計画で、今後、水道、電気等のインフラ整備を実施予定。サイトBを現在の20haから300haに拡大し、輸出加工区(EPZ)を設置することを検討しており、JBICに協力依頼している。サイトBには、ロジテムを含む3社が既に進出済み。サイトC(211ha)では、マレーシアの開発会社とラオス政府が共同で“Savan Park”という工業団地を開発し、軽工業、縫製、靴工場を誘致予定にしている。日系企業を含む5社が既に契約済み。サイトD(118ha)では、住民の移転先となる住宅地を開発予定にしている。

経済特区の恩典は、最長10年間の免税措置、低い所得税、材料輸入の関税免税、土地リース期間が最長75年(通常は50年)であることである。サワンナケート県は、人口75万人の森林資源と鉱物資源に恵まれた県で、同県の輸出額の9割以上がトランジット貨物である。SEZAへ入居の問合せが増加しているが、まだ受け入れ体制が整っていないのが現状である。



(3) 日系物流会社

主な事業内容は、国際貨物輸送事業、保税倉庫業、フォワーダー業、トラック・ターミナル事業。資本は、日本 55%、ラオス 45%。敷地面積 30,000 m²、倉庫面積(保税倉庫 2 棟)2,700 m²。バンコク～ハノイ間の海上輸送は、約 12 日間要するが、東西回廊を利用した陸上輸送は、約 3 日間と大幅に短縮される。ラオスに進出し、国際貨物陸上輸送事業をグループ内で運営できる体制を構築した。

東西回廊を「タイ～ラオス～ベトナム間」の陸上輸送サービスの展開を図る重要な場所とし、東西回廊の中間点に位置するサワンナケートにおいて保税倉庫を利用した輸出入貨物取扱業務や、他の物流企業も利用可能となるトラック・ターミナル(集荷と配送を行う地域に設置する輸送拠点)を運営している。

(4) 日系製紙会社

海外植林事業は、6ヶ国 11 事業で展開しており、2010 年までに 300,000 ha に拡大予定。ラオスに進出した理由は、比較的人口密度が低く、まとまった焼畑耕作跡地などの未使用地を植林地として長期にわたり利用できること、降水量・地力が植林にとって十分であり、植林木の成長性が高いこと、隣国のベトナムでの植林事業経験が適用できることから、ラオスの優位性に着目した。日系企業 85% (資金)、ラオス政府が 15% (土地) を提供し、ラオス中部 2 県(カムアン、ボリカムサイ)に 150,000 ha の敷地面積に 50,000 ha の植林コンセッションを取得している。リース期間は 50 年。事業コストは、5-10 億円/年。植栽樹種は、早生樹種(ユーカリ、アカシア)で、苗をベトナムから輸入し、植付後 7 年で伐採し、ベトナムへ輸出している。従業員数は、日本人 6 人、オーストラリア人 1 人、ラオス人 250 人。毎年 7,000ha の植林を目標にしており、今年は 5,000ha を植林している。地元住民・周辺環境への配慮として、社会貢献事業(井戸建設、学校建設用資材の提供等)を積極的に実施している。



(5) 日系電子工場

カメラ・ストロボ用発振トランス、トリガーコイル組立等を行っている企業のラオス工場。東京に本社があり、香港、台湾、韓国、中国、タイに工場がある。1997年にラオスに会社を設立し、1999年から操業開始している。第二メコン橋から5km、空港から25kmに位置するところに工場がある。タイと日本から原材料を輸入し、カメラのストロボ部分のコイル部品を生産し、タイに輸出している。ラオス工場には、日本人駐在員はおらず、タイ人社長が仕切っている。従業員の平均年齢は19歳、初任給は最低賃金の\$30、従業員数は、約750人。労働時間は午前7時半～午後4時半。ラオス人工員の離職率は10%程度。タイからの指導者は5名常駐している。

(6) 日系電子工場

ケーブルハーネスや回路基板等の製造・販売を実施している企業のラオス工場。上海、香港、バンコク、ハノイ、ジャカルタ、マニラにも海外拠点がある。工場はビエンチャン市内から約30分、タイとの国境から約5分の所にあり、従業員は85名（内管理職のタイ人2名）。労働時間は、午前8時～午後5時。残業がある場合は、午後5時から8時まで。一日の生産量は、7,000個。ラオス工場から、タイに輸出しているが、最終バイヤーはEU。ラオス工場のメリットは、東西回廊による物流の改善、安価で豊富な労働力、外資系メーカーへの10年間の法人税免除、タイとベトナムとの間に位置し、大きな市場のサテライト工場としての活用が可能なことである。2008年6月より量産をスタートし、12月までに月産100万本体制を確立。今月からタイに輸出を開始する。

(7) 日系衣料品製造工場

衣料品の製造・販売を行っている企業のラオス工場。1985年から中国に進出し、中国国内8工場で操業、1991年には、ベトナム・ホーチミンに進出している。ラオスでは、2007年11月に申請承認を得て、2008年1月より機会の搬入・組立を行い、5月より稼

ワート副首相の訪日時にラオス投資セミナーを開催したところ多くの出席者があり、日本企業のラオスへの関心の高まりを感じている、本年8月に日ラオス投資協定が発効し、本投資協定には、ラオスに進出する日本企業にとって重要な「内国民待遇」と「最恵国待遇」が明記されており、ラオスが日本からの投資を歓迎していることを示していると述べた。

- (2) スリボン計画投資大臣は、ラオスは法整備、インフラ整備、人材育成に取り組んでおり、民間セクター促進による経済成長を目指し、現在WTO加盟準備を進めている、鉱業、水力発電、繊維、観光への投資増加によりGDP成長率は、2005年以降平均8%強、2007-2008年の一人当たりのGDPは、728ドルへと急増し、このペースで経済成長を続けていけば、10年以内に後発開発途上国から卒業することができるだろうと発言した。また同大臣は、鉱業エネルギー大臣に就任し、11月末日より新しい計画投資大臣が就任することを紹介した。
- (3) フンペン投資計画省投資促進局長は、ラオス投資の優位性、投資奨励分野つき説明した。投資奨励分野は、①輸出のための製品生産、②農林業・農産物加工及び手工業、③加工産業、④人的資源開発、公共衛生、⑤インフラ建設、⑥主要な産業活動に供給される原料と設備の生産、⑦観光産業および中継サービス、である。税制面での恩典は、地域開発段階に応じ3ゾーンに区分され、発展段階の低い地域に対し、高い奨励措置を付与している。その他の奨励措置は、①原料と資本設備の輸入関税と税金の控除、②輸出製品における輸出関税の控除、③国外在住の従業員には10%所得税がある。ラオスへの投資の潜在的セクターは、エネルギー、鉱業、農業関連産業、観光、建設資材、軽工業、サービス産業であると紹介した。
- (4) 広島大学大学院鈴木教授は、日系企業にとってのラオスへの投資の魅力と課題につき説明した。ラオスの制約条件を述べ、産業集積化が進んでいるタイにマザー工場を置き、労働コストが安価なラオス（タイの最低賃金は、ラオスと比較すると5倍）において労働集約的作業を行う「地域補完型工業化戦略」を提案した。地域補完型工業化の担い手として、携帯電話のバイブレーター、家電用のマイクロチップ、デジタルカメラのフラッシュに使用するトリガーコイル、ワイヤー・ハーネス、カツラ、食品加工などがあると述べ、また、ラオスへの投資のビジネスモデルとして、天然資源採取/水力発電、植林、農業、旅行代理店、特惠関税制度（GSP）を活用した縫製業、駐在員家族の滞在生活を支援する住居、ホテル、病院の開発の可能性があると紹介した。
- (5) タイ山喜（株）加賀屋代表取締役社長は、ラオスへの進出体験談を披露した。タイ山喜を1989年、ラオ山喜を2005年に設立し、タイ山喜は、日本からの技術・ノウ

ハウの移転が成功しており、ラオ山喜にて従業員にトレーニングをしたり、タイで研修を行うことによりタイからラオスへの高度な技術移転を行っている。タイ語とラオス語は、非常に似ており、コミュニケーション及び技術移転をしやすい環境にある。将来的には、ラオスからベトナムの港を通じて輸出をすることを検討しており、それにより輸送日数が4-5日短縮することが可能になると説明した。

(6) Thai Arrow Products Cp., Ltd. 植松ジェネラル・マネジャーは、業務提携によるラオス進出体験談を紹介した。ラオスに進出した理由については、タイでの生産コストの高騰、タイ近隣諸国での物流網の整備、タイからの技術移転が容易なこと、であると説明した。ラオス進出に関しては、人件費がタイに比較して安価であるが、ラオスでは物流コストがかかることから、物流コストがどのくらいになるかを分析した上で、ラオス進出の是非を検討すべきであると述べた。

(7) 山田ジェットロ・バンコク・センター所長は、ムクダハン（タイ）からダナン（ベトナム）まで陸路で走行し、サワナケートに進出している企業にヒアリングを行ったところ、ラオスの投資環境には課題が多いことが分かった。一方で新たな投資先として検討する余地は大きいと述べ、JETRO バンコク・センターにおいてもラオス進出にかかる支援をしていく所存であると閉会の挨拶を行った。

(以上)